

第25回記念 蘭亭書法交流 寧波展 蘭亭の旅

訪問地

《天一閣》明代の范欽が建設した、現存する中国最古の書庫。建築様式として特徴的なのは、書庫の前に防火用に開鑿された池、天一池。東側の月湖を水源とし、水量は豊富な消火用の池である。最盛時には7万冊の蔵書量を誇ったというが、その後の戦乱で散逸した。明代の地方志や、寧波に於ける科学関連の資料が見られる。



《寧波印社》2019年11月7日に成立され、浙江省寧波市海曙区の月湖の蔣宅に位置します。主な業務は印学、書画芸術の創作、研究、交流及び関連の書籍、雑誌などの編集印刷で、篆刻や書画芸術作品の展示及び関連文献の収蔵と整理及び宣伝教育活動を行う。



《韩天衡美術館》美術館には1,136点の美術品があり、多年生展示ホール、仮設展示ホール、茶室、美術学校など、美術館と美術館の2つの機能を備えた独立した機能エリアがいくつかあります。博物館はもともと嘉定州織維工場であり、織維工場の古い建物の歴史的特徴が保存されています。博物館の看板とドアの肘掛けはアザラシの彫刻のスタイルであり、細部はすべて強い文化的雰囲気と反映しています。



《童衍方美術館》浙江省寧波海曙前童鎮の童氏旧宅の北側に位置し、敷地面積は約690平米、建築面積は797平米、元の「尺木草堂」の所在地で、前童古鎮の核心保護エリア内にあります。展示陳列、芸術鑑賞、學術交流、芸術教育などの施設を設けてあり、その中、「金石芸術サロン」という芸術家フォーラムは童衍方先生が弟子、芸術愛好者の金石書画芸術の研究と創作をを指導しされる基地です。

